
ディーラー・プシャ「セブン・ポーカー」

じかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ディーラー・プシャ「セブン・ポーカー」

【Nコード】

N8191Z

【作者名】

じかん

【あらすじ】

ハウスの身内で楽しまれているポーカーのワンシーンと、彼女であるリバティとのワンシーンです。

ジャツ ジャツ と、シャツフルの音がする。

プレイヤーが全員アンティを置いてゲームが始まる。アンティとはゲームの参加費の

ことで、プレイヤー全員が同じ金額を出す。このアンティが基本になって、かけ金が積まれる。

親がシャツフルを終えて、自分の左側から時計回りでカードを一枚配っていく。プ

レイヤーはプシャを含めて5人でゲームが行われている。

「ディーラーズチョイス」

親が宣言するとカードの3枚目をオープンにして配った。

行われているゲームはセブンポーカーだ。カードを各プレイヤーに配りながら、その都

度ベット、コール、レイズ、チェックしてゲームが進行していく。

最後には7枚のカー

ドが配られて、ショーダウンするまで勝負は分からない。プシャの手持ちのカード2枚

とテーブルにオープンになっているカードも含めて、ストレートフラッシュの所見だ。

更にラツキーだったのが、親の左側から時計周りにゲームが進むので、親の右隣に座

っているため、レイズできる一番最後の方の位置にいる事だ。最初のプレイヤーがレイ

ズして、次のプレイヤーもコールして、プシャもコールして、親もコールした。現金が

ポットに増えていく。

コールをすることでゲームを降りないこと、引き続き勝負に参加

することを表明する。他のプレイヤーがレイズしてくれば、それだけかけ金が上がるので大歓迎だ。最後に一番強い役のプレイヤーが勝つ。ストフラならほぼ負けなしに役が強いため、最初の方にいる時にかけ金を上げると警戒を招くので後の方が好都合である。

コールとは、右隣のプレイヤーが、ベットした分だけかけ金を出すことで、更にかけ金を増やすことも出来る。これが繰り返されるとポットに積まれるかけ金は上がる一方だ。そして、ゲームへの引き続き参加を表す。プレイヤーが自分の役に自信があれば、レイズしてかけ金を増やす事が出来る。勝てそうになればフォルドする。

プレイヤーは高い役が出来ていても、大した役ができていなくても最後の最後、ショーダウンの時にカードを全てオープンにして勝敗をつける。そして、一番強い役が出来ているプレイヤーが、かけ金を総取りして1ゲームが終わる。降っていないプレイヤーが自分のカードをオープンにして、決着をつける。その時までには、プレイヤー同士の駆け引きが行われる。

今、プレイされているのは、セブンポーカーで、手持ちの伏せてあるカード3枚と、テーブルにオープンされる4枚の合わせて7枚でゲームが行われる。役のことは、ハンドと言う。7枚全てのカードの高目取りの役で競われる。7枚カードが配られるが、シ

ヨーダウンの時にはその中で高目取りの5枚のカードのハンドで勝負となる。

4枚目のカードは伏せられて、残りのカードはオープンで。プシヤはストレートフラッシュが濃厚になり、役が出来そうだ。手持ちのオープンになっていない手札3枚と、オープンされて配られるカードで、高めのストフラを狙う。ストフラならキングハイのストフラが最高だが、そこまでは行きそうにない感じでも自然と胸も高鳴る。

今のところ誰もフォールドしていないので、稼ぐチャンスだ。左から時計周りで「コール」「レイズ」の声と共にゲームが進行していく。フォールドとはゲームを降りることだ。

セブンカードで、今、行われているポーカーはカードチェンジがない。ディーラーとフロアスタッフのハウスの従業員同士で行われている。ゲームを始める前に、トランプの2、3、4は抜いて使わない。

これは高い役が出来やすいように、確立を上げる訳だが、そして、ゲームを面白くするのが目的である。ジョーカーは使われていないので、最強のハンドはロイヤルストレートフラッシュで、その次はストレートフラッシュになる。スートの強弱はない。スートとは、スペードとかハートの絵柄のことで、基本的に勝負には関係ない。スートが関係するのはフラッシュ絡みの時だけだが、スートそのものは勝負には無関係だ。

わくわくしてきたプシヤはポーカーフェイスを心掛けた。ポットには既に5万天ぐら
いはある。ポットとは掛け金の置かれているテーブルの中央付近のことだ。プシヤの
ヶ月の給料は80万天で、これで勝てば10万天は稼げそうなので緊張もしてきた。

左側からありがたいことにまだ誰もゲームを降りていない。時計周りにゲームが「コ

ール」「レイズ」「チェック」の声と共にゲームが進行していく。

残りの全てのカードがオープンで配られ、プシヤのストレートフラッシュが確定し

た。俗に云う見下ろしになった。クイーンハイのストフラで、まず負けない状態になっ

た。負けるのはキングハイのストフラとロイヤルストレートフラッシュだけの状態だ。

他のプレイヤーのオープンになっているカードを見ると、フォーカードはありそうだ

し、ストフラの役もありそうだが、その時でもプシヤはクイーンハイのストフラなの

で、キングハイか、ロイヤルストレートフラッシュ以外で負けなしになった。悪くても

引き分けた。

最後のカードが配られる前にストフラが出来たので、他のプレイヤーがレイズをして
くれるのを見てほくそ笑んだ。

そして最後の7枚目のカードが配られていよいよ最後の勝負時で、既にかけ金は10
万天を超えている。

従業員同士のポーカーで10万天超えるのは高額だが時々ある。
理由は社長もゲーム

に参加しているのです、自然とかけ金も上がるからだ。社長のポケットマネーなら、誰も

遠慮はしないし、遠慮する必要もない。

まだ、誰もゲームを降りていないのは、他のプレイヤーも強い役の可能性もあるが、

ブラフの可能性もある。ブラフとはハッタリのこと、大した役が出来ていないのに、

敢えてベットをしてハッタリでかけ金を増やし相手を脅しゲームから降りすことを目的とするなど云う。

最後の段階でいよいよ勝負の時が来た。プシャの手札はクイーンハイのストフラで、

他のプレイヤーのカードを見たがエースの4カードがありそうなのは、一番最初にベットをしているプレイヤーだ。

益々好都合で、そのプレイヤーは、ポットリミット半分ほどレイズした。その隣のプ

レイヤーがコールして、次のプレイヤーも先の二人のカードと、場にオープンになって

いるカードをじっくりと見てコールした。ポットリミットとはテーブルの中央付近に置

かれているかけ金一杯まで賭けられることを言う。テーブルタップとも言つ。

3人目のプレイヤーもテーブルと手持ちのカードを見比べて、時間を掛けてコールした。

「コール、レイズ3万天」

レイズしてかけ金を吊り上げたので、その瞬間プシャは注目された。場にオープンに

なっているカードをまじまじと見られた。

「ストフラか？」

プレイヤーの一人が何気なく言った。ゲームに参加している全員がテーブルのカードと他のプレイヤーのカードを見て考える。自分の手札を見比べる。そして、役を読み可能性を計算する。

プシヤの次は、最後である親で、親は手持ちのカードを伏せてフールドした。ゲームを降りた。

それからいよいよ雰囲気、エースの4カードのプレイヤーの番になった。プレイヤーは社長だ。フォーカードは正確には、フォーオブアカインドと云う。

「コール。レイズ3万天」

社長が勝負に出て、かけ金を更に上げた。

「コール」

社長の次のプレイヤーは、コールしただけでレイズはしなかった。フロアスタッフの女性だ。プシヤはその相手の役を読んだが、このプレイヤーはフルハウスか、7か他のフォーカードの可能性も見えた。

「フールド」

次のプレイヤーは降りた。プシヤの番だ。稼げそうな雰囲気が漂う。

「コール、レイズ3万天」

プシヤは更にかけ金を上げた。そして、エースの4カードと思われる社長がコールし

たが、レイズはしなかった。今、勝負に残っているのは社長と、その隣の席に座っているフロアスタッフの女性とプシヤの3人だ。

「コール」

フロアスタッフの女性もコールした。勝負に参加の表明をした。テーブルには既に20万天ぐらいある。プシヤはあまり欲を出さずのを控えた。

「コール」

プシヤがコールして、ショーダウンだ。手持ちの札が明かされて、役が競われる。

「エースのフォーカード」

社長が述べた。

「負けた」

フロアスタッフの女性が嘆いた。

「クインハイのストレートフラッシュ」

「やっぱり、ストフラか」

社長は笑いながら席を立つとテーブルから離れた。

プシヤの勝ちだ。僅か20分ぐらいの間で20万天以上稼いだ。直にゲームを抜けるのは悪いので、勝ったため親をやりシャッフルしてカードを配り

ゲームを楽しんだ。

その後、適当にお茶を濁してゲームをこなして、フォールドしてポーカーから抜けた。

「ねえ、これ、どうなればいいの」

スロットマシンのレバーを引いて、彼女のリバティがプシヤに尋ねた。

「センター、トップ、ボトムどこかに、7が3つ全て揃えばそれに応じたメダルが出るよ。」

「一番はセンターに7が揃うことだね。斜めはないよ。」

プシャはスロットのレバーを引きながら答えた。

「とにかく7が揃わないとダメなんでしょ？」

「そう、7が揃えば一番で、次はBARかな」

「ふーん、そうなんだ。あつ、揃ったよ、BARだ」

リバティの声と共にマシンから勢いよく、ジャラジャラとメダルが出てくる。

「幸先がいいね」

「このメダル一枚いくら？」

「20天で、やめる時に換金してくれるから。等価交換だよ」

レバーを引いてプシャが答える。

「今のところいくら使ったの？」

「まだ最初の二人分の1万天だけだから、大して使っていないよ」

プシャのスロットにチェリーが揃ってちよつとメダルが出た。カッパに手を入れてメダルをマシンに入れる。

「何か飲み物は？」

「僕は、カルピスウォーターお願い」

「うん、分かった」

リバティがドリンクバーに向かい飲み物を取りに行った。プシャはメダルを入れてレ

バーを引く。リールが回り絵柄が流れてよく見えないが、止まるとまたチェリーが揃っ

た。スロットでチェリーが一つ出れば最低のメダルが出てくるし、チェリーが二つ以上揃えばメダルも少し増える。

「お待たせ。調子はどうなの？はい、カルピスウォーター、どうぞ」

「ありがとう。今のところ一進一退かな。大して増えもせず、減りもせず。リバティの方の所見は」

「まだ、よく分からなくてレバーを引いているだけ・・・」

レバーを引いてリバティがそう云うと、リールが回転して絵柄が揃った。その時だった。店内の電飾が輝き、光が店内を巡り、リバティの遊んでいるスロットの上に付いているブルーの回転灯もくるくる回った。そして景気のいい音と共にメダルがジャラジャラ出てきた。

「凄いじゃん。センターセブンだよ」

リバティのスロットのリールのセンターに7が3つ横に揃っていた。そしてメダルがジャラジャラ出て溢れそうになった。間もなく店員さんがリバティのそばに行き話し掛けた。

「ねえ、プシヤ。何かちょっと来てくれって」

「そう、大丈夫だよ。僕も一緒に行くから」

店員さんの後に続いてリバティはカウンターの脇に呼ばれたので、プシヤも後ろから

眺めていた。別の店員さんが奥から出て来てリバティに1万天札を30枚渡して、数えるように云われた。リバティは驚きプシヤの顔を見た。

「数えて。30枚お札があるかどうかを？」

やや、緊張したようだが、リバティがお札を数えると確かに30枚あった。30万天

の獲得だ。今日のポーカーのプシヤよりも稼いだ。

「すごい、何これ」

「センター7が揃ったからだよ。おめでとう。やったね。服とか靴も買えるじゃん」

興奮の余韻が冷めないまま、二人はまた、メダルを入れてレバーをガチャンと引いた。

それからもしばらくレバーを引いていたが、7は揃わなかったがBARが時々二人とも出たので、追加のメダルを借りなくても遊べた。その後はマシンから出てきたメダルとカップのメダルを使い切ってやめた。

二人で使ったのは、最初の1万天だけだがプシヤは負けた。

トータルでは今日は二人ともラッキーだったようで、家路についた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8191z/>

ディーラー・プシャ「セブン・ポーカー」

2011年12月26日00時58分発行